

第42回日本人会定時総会議事録

日時： 2013年度 4月19日(金) 19:00~21:00

場所： ヒルトングアムリゾート&スパ ギャラリールーム

1. 開会宣言 田中 真行総務部 部長
2. 議長選出 推薦により濱中 信氏(浅沼組)に依頼
3. 総会成立宣言

法人	122社	1,306票
個人	241名	241票
持票数合計		1,547票
委任状を含めた出席数		943票

グアム日本人会、会則第7条第3項に従い、総会の設立が宣言された。

4. 第42回日本人会定時総会での挨拶

在ハガツニャ日本国総領事 清水 久継

昨年5月末に着任し約1年が過ぎました。この間、日本人会の活動については理事会の報告やラッテを見て知るとともに、恒例となっている季節行事については、1年のサイクルに沿ってほぼ一通り経験することができました。チャリティーゴルフに始まり、ハロウィンパーティー、秋祭り、そして年が変わっての新年祝賀会にアートアンドクラフトフェア。また、日本人学校の関係では、運動会、卒業式、入学式その他、体育館建設の地鎮祭にも運良く参加することができました。入学式の際には竣工を待つばかりの体育館を実際に見て参りました。

そのほか印象に残っている行事としては、グアムで開催されたアジア太平洋女性会議があります。各国の女性に囲まれて難しいテーマを議論するという貴重な機会を得たのですが、グアムにおける様々なコミュニティと交流を深めることの大切さを思いました。

昨年はグアム日本人会創設40周年という大きな節目の年でしたが、私は日本人会のこうした一連の行事に参加して、日本人会の歴史の重みというものを実感しました。どの行事ひとつとっても一朝一夕にできるものではなく、長年にわたる日本人会の諸先輩方の努力の積み重ねがあってこそ、今の姿があるのだと思います。そしてこうした行事に参加するたびに感心するのは、すべてが周到に準備されていることです。担当の方々のご苦労を思わずにおれません。本来の仕事しながら、日本人会の理事・監事として、自らに割り当てられた業務を遂行するのは並大抵のことではありません。今回、三年の任期を終えて退任される理事・監事の方が8名おられますが、この場を借りてこれまでのご努力に心より敬意を表するものです。新たに理事・監事に就任される方々には、日本人会の活動のため、そしてグアムと日本との友好のために、力を貸していただければ幸いです。

私はこれまで様々な国で勤務してきましたが、グアム日本人会ほど活発にアウトリーチ活動をしている組織は世界でもあまり例がないのではないかと考えております。秋祭りなどは地元の人々も大勢参加して今やグアム島最大の文化イベントとして定着した感がありますが、これなどは日本人会がいかに現地社会と融合して活動しているかを示す好例だと思います。

明日からは新たな体制の下で日本人会の活動が始まります。理事・監事の方々のご負担を少しでも皆さん方と分かち合いながら、日本人会の活動を支え、そしてこのグアム日本人会の良きレガシーというものを、次の世代に伝えていきたいと思っています。

5. 総会議事録活動報告会長総括

第23代 グアム日本人会長 米山 豊仁

2012年度の総括報告

各部の部長より詳しい報告はありますので、簡単に報告いたします。

1. 教育部の長年の課題、体育館建設  
2007年具体的になり5年係りでやっとこの5月落成に漕ぎ着けました。会員の皆様には沢山の寄付を頂き、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。お蔭様で日本人学校の生徒達も安全で楽しい体育教育が受けられます。
2. 文化部では、FAWAアジア大会がグアムで開催され、スポンサーとして、清水総領事の素晴らしいスピーチもあり大成功を収めました。また、女子会開催、ハロウィンパーティー、アートアンドクラフトショーも大盛況に終わりました。
3. 青年部におきましては、例年開催される秋祭り、今回も4万人弱の観客動員で大成功を収めました。2月12日にはタモン地区でのツーリスト殺傷事件で会員の皆様から沢山のボランティアをして頂きました。そして、つい最近の北朝鮮の動きでも、万が一の事を想定し至急連絡網のスタンバイをしておりまして、今年は最後の最後まで忙しい年となりました。

また私は今回を持ちまして3年間の会長職を卒業いたします。この3年間で一番記憶に残る出来事は2011年3月11日の東日本大震災です。美しい風景が一瞬の間に、瓦礫と化し、尊い命が失われる悲惨な状況が全世界にテレビ中継されました。我々日本人は翌日の3月12日より、義援金の受付を開始致しました。そして多くの個人、組織より多大なる義援金を受け取りました。この義援金の募集により、ローカル組織、人々との結びつきが強まり日本人会を多くの方にとって貰う機会となりました。

そして、先ほど報告しました日本人学校の体育館建設ですが、この体育館建設におきましても、会員の皆様にも多大なる寄付を頂きました。

また2月の観光客殺傷事件におきましても会員の皆様のボランティアの協力により、グアムの基幹産業である旅行業界の手助けをしました。

振り返りますと、グアム日本人会はグアムに無くてはならない組織で在り、その組織を会員の皆様がお互いに助け合い、そして支えあって出来ていることを改めて実感致しました。これからも益々の発展を期待致します。

最後になりますが、3年間会長職を支えて頂いた各理事の皆様、事務局の皆様そして会員の皆様ありがとうございます御座いました。

6. 各部報告

教育部 部長 江川 健太郎

①学校行事と理事会対応②体育館建設③その他トピックスに分けて年度をふりかえります。

4月7日補習校入学式、始業式に始まり、12日幼稚部入園式、13日、日本人学校入学式、始業式から本年度の学校行事がスタートしました。

教員体制では、昨年度から懸案であった補習校校長/幼稚部園長に、本間校長(園長兼務)が着任され、年度のスタートを迎えることができました。同時期、体育館建設のための資金繰り計画について学校理事会での協議が始まりました。

5月には学校理事会に、体育館建設委員会を設け、建築士の宇佐見さんという外部有識者を交えて、具体的な建築計画についての議論とあわせて建設資金融資を探る活動も始まりました。

外務省や金融機関に提出する資料として、学校理事会の機構として未整備だった定款等見直しが行われました。この結果、理事会の構成員及び議決権関係が整備されるとともに、グアム日本人学校の正式名称が「The Japanese School of Guam」として登記されました。

6月10日には日本人学校運動会が開催。同月中に、体育館建設資金をBank of Guamから融資(借入)できる目途がたち、いよいよ体育館建設が具体的な形となって動き始めました。

7月には体育館建設入札が告知され、7日のPTA主催によるフリーマーケットは、建設資金集めという具体的な目標もあって、大盛況でした。

8月早々には建設会社が浅沼組さんに決定し、いよいよ建築の具体的な内容の話が進みました。また、この時期から文科省による学校の来期教員体制調査が始まり、派遣教員数の見直し(削減)が懸念事項として取り上げられるようになりました。

このような中、2012年度末をもって、校長を含む教員の帰任(計3名)が決定していたため、来期の教員体制作りが始まり、教頭候補者の選任が始まりました。

9月2日にはチャリティーゴルフ開催。大変多くの企業様、ご参加者にご賛同いただき、100名のご参加、計\$10,000の寄付を集めることができ、一層、体育館建設へ弾みをつけることができました。同月23日に開催された学習発表会では、来期は体育館で開催!の声もあがり、体育館建設は学校関係者の強い願いであることが改めて確認されました。

その体育館建設は、10月13日に起工式、15日には着工いたしました。あいにく起工式は大雨でしたが、参加者は一様に赤土で足元がドロドロになった様子を体験し、照りつける太陽や、どしゃ降り雨の雨から子供たちを守る体育館の必要性を改めて実感しました。

11月、12月には体育館建設委員会で資金集めの具体的な方法が検討されました。あわせて、文科省から来期教員体制(派遣教員)の動向(人数と期間)が通達され、来期教員体制の問題が理事会で協議されました。

2013年1月に入って、プロ野球選手も来校され、子どもたちとの交流をもっただけでなく、体育館資金を寄付いただくなど、資金集めが本格化しました。

この結果、多くの企業様から寄付があり、ご寄付いただいた企業名は体育館のプレートに刻まれ、子どもたちの発育を体育館とともに